

大学男子庭球部員の競技レベルとその心理的特徴

Psychological characteristics and the competitive of men's university tennis staff

1K07A147-7 氏名 富崎 優也

指導教員 主査 奥野 景介 先生 副査 葛西 順一 先生

【緒言】

スポーツ選手の競技能力にはさまざまな要因があるが、それらは身体的能力と、心理的能力に大別される。そして、心理的能力が低ければ、自身の身体能力を十分に発揮できない場合がある。特にテニスは、相手との駆け引き等があるため、高い心理的能力が必要になる。テニスに関して、技術的な分析やゲーム分析等の研究はいくつかあるが、心理的な競技能力向上についての研究や方法はあまりなされていない。このことから著者は、本論文でテニス選手の心理面について検討した。

本論文の冒頭では、テニスという競技に対する読者の理解が深まるように、テニスの歴史、ルール等について概説し、その後、大学男子テニス界の競技レベルとその心理面について述べた。

【研究目的】

更に自分の競技力を向上させるためには何が必要なのか、また庭球部の主将としてどうすればレギュラーだけでなく、ノンレギュラーのレベルアップをすることができるのか考え、今回硬式テニス選手の精神面に着目して研究をしたいと考えた。

本研究の目的は、早稲田大学庭球部男子のレギュラーとノンレギュラーでは、精神面にどれだけの差があり、競技力向上のために何が必要なのかを明らかにするものである。

【方法】

① 調査対象

早稲田大学庭球部の男子部員 34 名 (レギュラー 9 人、ノンレギュラー 25 人) であり、競技年数はテニスを始めて 1 年の選手から、10 年以上続けている選手までを幅広く調査対象とした。

② 調査方法

調査対象者に対し、心理的競技能力診断検査 (DIPCA) を使い、スポーツの試合場面について 52 個の質問を順々に読み、回答欄に答えを記入させた。記入が終わったら回収し、分析をした。

③ 分析項目

分析項目は、心理的競技能力 (通称、精神力) を、総合得点と 5 つの内容 (競技意欲、精神の安定・集中、自信、作戦能力、協調性) に分けて診断し、結果を導き出した。

- ・ 庭球部全体の心理的競技能力 (各因子) の分析。
- ・ レギュラー、ノンレギュラーとでの心理的競技能力 (各因子) の比較および分析。

以上 2 つの観点から早稲田大学庭球部の心理的特徴を調べた。

④ 調査時期

試合 1 週間から 2 週間前であり、11 月 11 日 (月) ~ 11 月 20 日 (土) の間に調査資料を配布し、対象者の回答が終わり次第回収して、分析を行った。

⑤ 統計処理

本調査によって測定された項目について、Mann-Whitney の U 検定を用いてレギュラー群とノンレギュラー群間の比較を行った。有意水準は $P < 0.05$ とした。

【結果および考察】

今回の研究 (レギュラーとノンレギュラーとでの心理的競技能力 (各因子) の分析) を行ったことにより、次のような早稲田大学庭球部の心理的競技能力の現状が明らかになった。

それは、レギュラーとノンレギュラーは、心理的競技能力 (各因子) のうち、協調性以外はレギュラーの方が高い値を示した。それは、レギュラーの方がノンレギュラーに比べ勝ちたい気持ちが強く、自分に見合った目標設定ができていたと考えられる。しかし、協調性において、レギュラーとノンレギュラーではほとんど差がなかった事は、庭球部に属している事、部員全員に自覚と役割を担わせているためと考えられる。これらの結果からノンレギュラーのレベルアップの為に必要な点は以下の通りである。

それは、高い競技意欲を持つために、自分に見合った練習や目標設定をする事、今自分に何が足りないのかを分析し、周りの人より努力する事、そしてより多くの大会に出場し、経験を積む事などがあげられた。

本研究で明らかになった、「結果」や「ノンレギュラーに必要なもの」は、庭球部全員が意識する必要があり、それを達成することによって更なる競技力向上に繋がる。